

秘密の危険生物研究所をめぐる 科博、「超危険生物展 科学で挑む生き物の本気」開幕

国立科学博物館において3月14日、特別展「超危険生物展 科学で挑む生き物の本気」が開幕した。
地球上には「食うため」「身を守るため」脅威的な能力「必殺技」を秘めている生物が多く存在する。人間にとって時に脅威となる

生態・能力を持つ生物を、同展では「危険生物」として紹介。鋭い牙で獲物を仕留める「キラバイト型」、体の一部が武器となる「武装型」、毒で攻撃・自らの防御を行う「猛毒型」等、2つのエリア、8つの「ラボ」に分類し、生物が秘めた「必殺技」の数々を科学的な視点から解き明かす。

同展では、世界最大級6m超のイリエワニ「ロロン」のレプリカが公開されるほか、アフリカゾウの鼻を解剖学と最新ホログラム技術で立体化し紹介する。また、数千万匹の大量で移動し、獲物を食い尽くす生態で知られる「サスライアリ」、その女王の貴重な標本を日本で初めて展示。貴重な標本や模型、精巧なCG、映像など多角的な手法を用いて、危険生物の驚くべき生態から身近な生物が隠し持つ危険性まで紹介しており、生命の不思議さや奥深さへの知的好奇心をかき立てる迫力満点の展示となっている。

3月13日に行われた報道内覧会では、同展のアンバサダー兼音声ガイドを務めるお笑いコンビ麒麟の川島明さんが登壇。実際に展示を見た感想を語ったほか、来場者に向けて「私もわからないところから勉強させてもらいました。展示を見て人間に共通する部分がない武器を考え、見つかる素敵な展覧会とさせていただきますので、是非足を運んでください」とメッセージを贈った。会期は6月14日まで。



イリエワニ『ロロン』の実寸大レプリカ



アフリカゾウの全身骨格の前で写真におさまる川島さん(左)と同展総合監修の川田氏



麒麟・川島さん注目のキリンの頭部はく製(左)・骨格標本